

第37回

寒地土木研究所講演会

Web配信(収録版)

配信期間

2023/12/11(月) 9:00 ~ 12/25(月) 17:00

視聴方法

寒地土木研究所HPから事前申し込みをしてください。

<https://chouseikan.ceri.go.jp/web/event/>



寒地土木研究所HP
【イベント情報】

視聴
無料



JSCE23
-1396
2.5 単位

本公演は、公益社団法人 土木学会継続教育(CPD)プログラムとして認定されています。
11月9日(木)現地開催の第37回寒地土木研究所講演会にご参加いただきCPD受講証明書を受領された方は、
本Web配信と重複してCPD受講証明書を発行できませんので、事前申込及び認定団体への申請の際はご注意願います。

11月9日(木)札幌市「かでの2・7」で開催の第37回寒地土木研究所講演会で収録したものをWeb配信します

プログラム

◆ 基調講演 (約60分)

「誰一人取り残さないwell-beingな社会を目指して」
～建設分野における地域の課題と解決への糸口～

東北大学大学院 工学研究科 教授

同 インフラ・マネジメント研究センター (IMC) センター長

久田 真 氏

◆ 一般講演 (合計約90分)

「河川管理の高度化、効率化に向けた技術開発」

約 30 分

寒地河川チーム 上席研究員 大串 弘哉

「道路除雪(運搬排雪)のDX化について」

約 30 分

寒地機械技術チーム 上席研究員 片野 浩司

「予防保全を実現するためのメンテナンスサイクルに向けた技術開発」

約 30 分

構造物メンテナンス研究センター (CAESAR)

橋梁構造研究グループ長 石田 雅博

お問い合わせ

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地技術推進室

TEL:011-590-4046 FAX:011-590-4048 E-mail:kouenkai-1@ceri.go.jp

第37回 寒地土木研究所講演会

【基調講演】

「誰一人取り残さない well-being な社会を目指して」



久田 真 氏

東北大学大学院 工学研究科 教授
同 インフラ・マネジメント研究センター (IMC) センター長

講演者プロフィール

1990年 3月 京都大学工学部交通土木工学科 卒業
1990年 4月 株式会社 鴻池組
1991年 4月 東京工業大学 工学部 助手
1998年 3月 新潟大学 工学部 助教授
2002年 4月 独立行政法人土木研究所 技術推進本部 主任研究員
2005年 4月 東北大学大学院工学研究科 助教授
2007年 4月 東北大学大学院工学研究科 准教授
2009年 10月 東北大学大学院工学研究科 教授 ～ 現在に至る
2014年 1月 東北大学大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター
センター長 ～ 現在に至る
2023年 4月 東北大学 グリーン未来創造機構 グリーンクロスステック研究センター
副センター長 ～ 現在に至る

～建設分野における地域の課題と解決への糸口～

我が国では、デジタルトランスフォーメーション(DX)、グリーントランスフォーメーション(GX)など、誰一人取り残さないwell-beingな社会へ向けた取り組みが加速している。

その一方で、建設分野での担い手不足をはじめ、大規模自然災害やインフラ老朽化への対応の遅れなどが懸念されている。

本講演では、2023年から開始されたSIP第3期の概要も交えつつ、建設分野における地域の課題と解決への糸口について概説する。

【学会及び社会における活動等】

- ・仙台市 廃棄物対策審議会 会長
- ・国土交通省 道路局 道路技術懇談会 会長
- ・経済産業省 日本産業標準調査会 土木技術専門委員会 委員長
- ・土木学会 インフラメンテナンス総合委員会 副委員長
- ・国土交通省 社会資本整備審議会 社会資本メンテナンス戦略小委員会 委員
- ・内閣府 第3期 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) プログラムディレクター

【代表的な受賞歴】

- 2017年 日本アセットマネジメント協会 第1回JAAM賞
- 2018年 内閣府 第1回オープンイノベーション大賞(国土交通大臣賞)
- 2019年 日本コンクリート工学会 日本コンクリート工学会賞(功労賞)
- 2021年 土木学会 土木学会賞 吉田賞(論文部門)

【一般講演】

「河川管理の高度化、効率化に向けた技術開発」



大串 弘哉 寒地河川チーム 上席研究員

担い手不足やインフラ老朽化が進む中、河川管理の高度化・効率化が求められています。

河岸侵食が生じている箇所をCCTV画像で検知して管理者に知らせるシステムの開発や、出水前の堤防点検でドローンを活用する取り組み、出水時に的確な樋門操作が行えるように作業者を支援するシステムの開発を紹介します。

また、洪水を安全に流す上で障害となる河道内に繁茂する樹木の抑制について、河川管理者と取り組む最新の知見を紹介します。

「道路除雪(運搬排雪)のDX化について」



片野 浩司 寒地機械技術チーム 上席研究員

道路管理者は、冬期間の交通流確保のため、運搬排雪を実施していますが、その実施時期、工法は、除雪従事者の経験に支えられています。また、除雪従事者の減少、高齢化により、担い手確保も困難な状況です。そのため、適切な作業体制の構築や熟練者でなくても最適な作業を実施できるよう、オペレータへの操作支援が必要です。そこで、堆雪量計測と作業計画支援のデジタル化及びロータリ除雪車の機械操作の自動化について紹介します。

「予防保全を実現するためのメンテナンスサイクルに向けた技術開発」



石田 雅博 構造物メンテナンス研究センター(CAESAR) 橋梁構造研究グループ長

道路橋やトンネルの定期点検が平成26年に義務化され、5年に一度の定期点検が2巡目に入っていますが、今後は予防保全による老朽化対策が重要となっています。土木研究所では橋梁診断支援AIシステムを開発するとともに、予防保全を実現するために床版土砂化、河床洗掘、コンクリート橋の塩害などの点検・診断・措置技術を開発しており、これらの技術開発の状況と今後の展望について紹介します。